

剣対剣技法のチェックシート (ver.211106)

廿日市合気道クラブ

剣対剣は3種類以上、止めがかかるまで続ける。まずは剣先を合わせて間合いを確認する。取りは右相半身の自然体で、剣先は中心線上で右足親指の前。受けは中段の構え。

A. 受けは正面打ちのために上段に振り被る。取りは振り被りつつ右に轉身し、振り降ろした受けの小手を抑える。

①□右相半身、正面打ち、一教

小手の抑えを外したら受けが再度振り被るので、受けの左脇を切り下ろした後に、振り降ろす受けの剣を受け流す。剣を振り降ろした受けに近づき、左袈裟で受けの小手を制した後に剣先を返して受けの喉元に突きつけて残心。

B. 受けは正面打ちのために上段に振り被る。取りは振り被りつつ右に轉身し、剣先を受けの喉（または左小手、心臓）に突きつけて制する。取りは受けの右脇を切り下ろし、振り降ろした受けの小手を抑える。取りが抑えを外して剣を受けの喉元に突きつけると、受けは右足を一步引いて再度振り被る。

②□右逆半身、片手取り、二教

受けの右脇から左脇にかけて剣で引き切り、剣を振り降ろした受けの左側方に近づき、剣先を返して受けの喉元に突きつけて残心。

③□右逆半身、片手取り、三教

受けの右脇を左袈裟で切り落とし、剣を振り降ろした受けの左側方に近づき、剣先を返して受けの喉元に突きつけて残心。

④□右逆半身、片手取り、四教

受けの左脇に追い突きを行い、剣を振り降ろした受けの左側方に近づき、剣先を返して受けの喉元に突きつけて残心。

⑤□右相半身、片手取り、四方投げ

腰を引いて溜を作り、逆袈裟に斬りあげつつ受けの左側から後方に抜け、剣先を受けの首元につけて残心。

⑥□右逆半身、片手取り、回転投げ

腰を引いて溜を作り、逆袈裟に斬りあげつつ受けの左側から後方に抜け、さらに転換して剣先を回転して受けの右脇を左袈裟で切り落とし、剣を振り降ろした受けの左側方に近づき、剣先を返して受けの喉元に突きつけて残心。

C. 受けは正面打ちのために上段に振り被る。取りは振り被って剣先を受けの喉に突きつけ、受け流しつつ左に轉身し、振り降ろした受けの小手を抑える。

⑦□右相半身、片手取り、二教

剣の峰で受けの剣を左に払って巻き上げ、右に轉身せずに、振り被った受けの左小手を抑える。剣先を返して受けの喉元に突きつけて受け流し、受けの右側頭を斬る。剣先を降ろして受けの喉元に突きつけて残心。

⑧□右相半身、片手取り、三教

小手の抑えを外したら受けが再度振り被るので、右に轉身して、振り被った受けの左小手を抑える。左に轉身しつつ受け流し、剣を振り降ろした受けの右側方に近づき、剣先を返して受けの喉元に突きつけて残心。

D. 取りは左逆半身で下段の構え。受けは中段の構えから右八相の構えとし、右袈裟に切り込む。

⑨□左逆半身、横面打ち、五教

取りは左八相の構えで受けの剣を払い、左に切り返して受けの右側面に剣を押し返す。受けの脇が開いたところで、剣を切り返して受けの左脇につける。柄を逆手に持ち替えて左脇から右脇に引き切り、剣を切り返して受けの右後方から剣先を受けの首元につけて残心。

以上